

武蔵野市環境啓発施設運営会議 (第4回)

令和6年11月21日(木曜日) 9時30分から

- 開館からの振り返り
 - 「管理運営方針」における基本的な方針について
 - 基本的な事項に沿った、開館からの振り返り
 - 今後の運営の方向性について
(枠内に、実施状況及び運営の方向性を記載)
- その他

開館からの振り返り　－市の基本的な考え方－

武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（P.8～）

エコプラザ（仮称）が目指すもの

- 日常生活における環境問題への気づき
⇒日々の暮らしの中に環境問題があることを知る
- 低炭素モデルの実現
⇒気づきを環境に配慮した行動に結びつける
- 地域力の向上
⇒一人ひとりの行動をつなぎ、地域ぐるみの取り組みへと広げる
- まちづくりとの連携
⇒地域の取り組みを武蔵野市全域へと拡大し、より良いまちづくりを目指す

コンセプト

『みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ』

（基礎となる考え）

- 多様な環境に関する啓発
- 市民参加・市民提案
- 市民団体・事業者・市など異なる主体の連携
- 進化しながら磨く
- クリーンセンターの歴史の継承と連携

開館からの振り返り　－管理運営方針－

武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針（P.4）「管理運営に関する基本的な方針」

①市民参加型施設の実現

（前略）本施設では、こうしたごみと市民参加の歴史や議論、成果、関わった方々の思いなどを共有するとともに、市民自治を実践してきた本市ならではの施設として、市民や市民団体、企業、市など異なる主体がゆるやかにつながり、多様な環境啓発の担い手・主体として活躍できるように支援していく市民参加型施設の実現を目指す。

②進化し続け、磨かれていく施設

本施設は、初めから完成形とするものではない。市民が日々刻々と変化する環境問題に向き合い、自ら学び、行動することによって進化し続け、磨かれていく施設である。時代の変化に対応し、次々に起こる環境問題に対処できるように、テーマ自体も検討していく過程の中で変わっていくことができる。多様な主体と共に学び、施設の価値や目標を共につくり、共有し、成長し続け、少しずつ磨かれていく施設であることを重要視しなければならない。

③市の環境政策の実施、他分野事業などとの連携

本施設では、市民参加型施設の実現を目指すとともに、市の環境政策に沿った事業を実施・展開していく。また、環境分野の事業に限らず、市や財政援助出資団体などが行う子どもや子育て、自然体験、文化、教育、福祉、生涯教育など様々な分野の事業を、環境を切り口にして連携・実施することで、より多くの市民に環境の大切さに触れてもらうことができるように仕掛けていく。（後略）

④安全・安心かつ効率的な施設の運営

本施設は、環境学習や環境啓発の拠点として「子どもたちに未来をつなぐ」ことをコンセプトとして掲げており、（中略）安全・安心への配慮が必要である。また、（中略）市の財政状況を踏まえた効率的・効果的な管理運営を行っていく必要がある。

開館からの振り返り　－管理運営方針－

武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針（P.9）「管理運営の基本的な事項」

(1)施設の利用、維持・安全管理（P.9）

施設の設置目的を実現するための利用規則及び施設を快適に利用するための維持・安全管理の基本的な事項

(2)管理運営体制（P.10）

運営にあたっては、市の環境啓発事業の再編や環境を切り口とした他部署との連携、市の政策目的を反映した事業展開の必要性などを考慮する必要がある。

本施設では施設運営や環境啓発事業に市民や市民団体、企業などが主体的に関わる「市民参加型施設」を目指しており、施設を共に育て、施設と一緒に育っていける人材を発掘・養成し、その活動を支援していく。

(3)所属、業務（P.12）

本施設は市環境部環境政策課の所管とする。また複数課・他分野にまたがる事業を「環境学習・環境啓発」の切口で横串を刺し、多様な事業を展開していく。

(4)組織体制（P.12）

①人員体制、②運営協議会（運営会議）、③連携会議

(5)評価・検証方法（P.14）

事業の評価にあたっては、エコプラザ（仮称）のマネジメントとして事業計画の作成・評価・見直しを継続して行う必要があるため、以下の手法を組み合わせる評価指標を作成し、年1回運営協議会で評価検証する。評価・検証結果については翌年度の事業計画に生かし、適切にマネジメントを行っていく。

(6)想定運営コスト（P.15）

（平成30年度時点）

開館からの振り返り – (1)施設の利用、維持・安全管理 –

(1)施設の利用、維持・安全管理 (P.9)

施設の設置目的を実現するための利用規則及び施設を快適に利用するための維持・安全管理の基本的な事項

①利用規則の基本事項

◆実施状況

令和4年

6月15日 施設予約利用の試行について、市報等で周知

9月1日 試行による施設予約利用を開始

令和5年

6月 連携会議及び運営会議で意見聴取

7月10日 本格的に施設予約利用を開始

施設予約利用件数

年度	R 4	R 5
使用回数	8 件	3 9 件

②維持・安全管理

◆実施状況

- ・概ね問題なく運営している。
- ・日常業務については、やや人員が不足し、主催事業や施設貸出しの際の設備・機材のセッティング、アーカイブコーナー運営に不安が生じている。
- ・危機管理として、上級救命講習など常勤職員だけでなくパートナー職員も受講

(2)管理運営体制 (P.10)

運営にあたっては、市の環境啓発事業の再編や環境を切り口とした他部署との連携、市の政策目的を反映した事業展開の必要性などを考慮する必要がある。

本施設では施設運営や環境啓発事業に市民や市民団体、企業などが主体的に関わる「市民参加型施設」を目指しており、施設を共に育て、施設と一緒に育っていける人材を発掘・養成し、その活動を支援していく。

①開館当初の体制

◆実施状況

- ・記載の通り、市の直営体制とし、個別の事業委託や市民参加を取り入れて運営している。

②開設から5年後以降

◆実施状況

- ・令和5年度は、コロナ禍が明けて初めて通年開館した。
- ・事業委託については、年度当初の事業や事業の継続性などを考慮し、年度ごと事業委託ではなく、複数年度にまたがる事業委託についても検討する必要がある。
- ・現在、開館から3年10か月が経過しており、開館からの振り返りを行い、運営会議の意見をいただきながら、開館5年後以降の運営について検討する時期を迎えている。

開館からの振り返り – (2)管理運営体制 –

③市民参加の推進

○登録サポーターの養成

◆実施状況

- ・ サポーター養成として、連続講座「環境の学校」を実施してきたが、サポーター登録の入口となる「環境の学校」参加者数は各回10人前後と少く、サポーターの登録に繋がっていない。令和6年度は、単発の講座とし、参加者数を伸ばしている。
- ・ サポーターとして23名登録しているが、活動人数は既存市民団体メンバーのみでごく少数になっている。サポーターによる運営を想定していた受付業務などについては市職員により運営している。

○市民団体・企業などによる環境啓発事業の実施

◆実施状況

- ・ 施設予約利用及び環境啓発事業費補助金について、制度を整備し市民団体等の活動支援を実施している。

環境啓発事業費補助金の交付額

年度	団体名	補助事業名	交付額
R2	NPO法人むさしの市民エネルギー	オンライン講演会 持続可能な社会を暮らしの中から～ウィズコロナとエネルギー～	37,400円
	特定非営利活動法人サラダボウル	ぶんぐりんく	51,170円
	BeYond Labo	ひとりの小さなSDGsから みんなで続ける大きなSDGsへ	54,669円
	フードバンクZoom講座実行委員会	武蔵野ではじめよう!!「フードバンクって何?」Zoom講座	28,561円
R3	NPO法人むさしの市民エネルギー	風力発電でイルミネーションを点灯しよう ～自然エネルギーで未来へメッセージ～	55,000円
	吉祥寺CARP	親子でエコ工作	46,823円
R4	NPO法人むさしの市民エネルギー	講演会「気候危機に立ち向かう～再生可能エネルギーを増やすには」	38,425円
R5	MAKE Clean & Team	朝から清掃活動	1,530円

開館からの振り返り – (2)管理運営体制 –

③市民参加の推進

○環境情報の集約・発信と学習・交流の機会の提供

◆実施状況

・ むさしのエコreゾートの施設を拠点として活動する市民団体等の広報支援をしている

ex. 団体が施設外や自由来館でイベント実施する場合は、団体のみの広報となる。

団体が施設予約利用してイベント実施する場合は、団体広報のほか、むさしのエコreゾートSNSで広報

団体がエコreゾートワークショップに参加してイベント実施する場合は、団体広報のほか、むさしのエコreゾートで広報、併せて市報・市SNSで広報している。

エコreゾートワークショップ (9月)

エコP 環境について楽しく学ぶワークショップを体験しませんか。

▶場所：むさしのエコreゾート ▶対象：市内在住・在勤・在学者優先し申込順 ▶費用：無料 ▶申込・問： **申** とあるものは二次元コードからむさしのエコreゾート ☎60-1945へ。



米ぬかふりかけワークショップ

日時	内容	講師・団体名
土・日曜 (21日・22日・29日を除く) 午後1時～3時	下水に流していけないものはな～に？	水の学校サポーターズ・サロン
14日(土) 午後2時～3時	ハギレでシュシュを作ろう！ 申	エコreゾート
15日(日) 午前10時30分～正午	食べてフードロス削減！米ぬかふりかけワークショップ 申	ハチハチ (nucca-ke)
25日(水) 午後3時～3時20分	中央図書館による出張おはなし会	中央図書館

市報への掲載例

- ・ 出張型の環境啓発事業について、「環境の学校」などの講座を公共施設で開催している。今後は、アウトリーチによる環境啓発として小中学校等への出前授業が求められており、教育部署へのヒアリングなどを進めている。

開館からの振り返り – (3)所属・業務、(4)組織体制 –

(3)所属・業務 (P.12)

本施設は市環境部環境政策課の所管とする。また複数課・他分野にまたがる事業を「環境学習・環境啓発」の切口で横串を刺し、多様な事業を展開していく。

◆実施状況

- ・ 環境を切り口として、他分野のイベント開催を支援し、普段、環境問題に触れることの少ない層の来館に繋げている。 (ex.あったかまつり、農産物品評会、桜まつりなど)

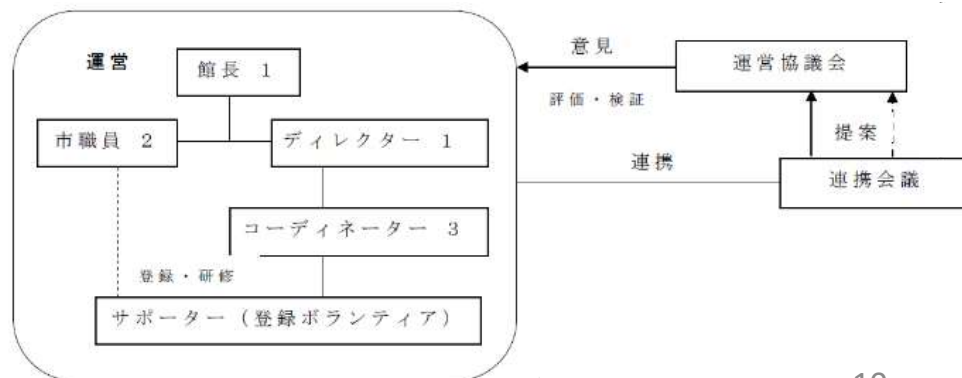
(4)組織体制 (P.12)

①人員体制

◆実施状況

- ・ 当初、コーディネート業務として市民団体等による啓発活動の調整や支援を中心に想定していたが、現状は環境啓発事業の企画・実施、広報や講師選定のほか、各事業等への問合せ対応などが多い。企画・実施に伴う環境に関する知識や講座・プログラム作成スキル、情報発信に必要なSNSやデザインのスキルが求められ、研修などの人材育成が追い付いていない。今後、出前授業などのアウトリーチを検討する際には課題となる。委託事業者による事業実施などが考えられる。
- ・ 受付業務等については、当初、サポーターによる運営を想定したが、現在は市職員により運営している。

館長 1名	正規職員	館全体の管理運営の責任者、市の施策に関連する事業の統括、全体調整
事務局職員 2名		市の施策に関連する事業の企画・実施、館全体の管理運営・調整、経理、庶務 *コーディネーターが休暇の際はコーディネーターの役割も担う
ディレクター 1名	嘱託職員	館全体の事業の企画・調整、コーディネーター・登録サポーターとの調整役 *コーディネーターの役割も担う
コーディネーター 3名		事業の企画・実施・参加促進、利用者の相談・サポート、登録サポーターの養成・支援、多様な主体との関係づくり
登録サポーター	ボランティア	受付、施設内のガイド、簡単な相談業務、見守り



開館からの振り返り – (4)組織体制 –

②運営協議会（運営会議）

◆実施状況

第1期、第2期の環境啓発施設運営会議（主な報告事項等）

第1期	第1回	R1.8	会議設置/委員長・副委員長挨拶/会議実施要領（案）/エコプラザ（仮称）概要/エコプラザ（仮称）事業進捗
	第2回	R2.1	工事進捗/連携会議進捗/プレ事業環境の学校/プレ事業発信ツール検討/周知事業/環境フェスタ・エコマルシェ等
	第3回	R2.6	会議名称変更/施設名称決定/工事進捗/R1事業報告/連携会議実施/R2主な事業
	第4回	R2.7	R2事業実施/サポーター制度
	第5回	R2.9	連携会議実施/環境の学校PRPJ/環境啓発補助募集/環境フェスタ/キャラクタ愛称報告/サポーター制度/設置条例
	第6回	R2.10	開館に向けたオンライン会議（施設紹介、開館）/施設内の情報発信/11月8日配信イベント/開館式典・内覧会実施/キャラクタ愛称/環境の学校/環境啓発補助/自由来館の利用ルール/プレサポーター
	第7回	R2.12	開館式典・内覧会/開館状況/環境フェスタ実施/「トリセツ」(委員提案)/施設評価方法/庁内連携推進会議設置/運営体制
	第8回	R3.3	開館状況/施設評価/施設貸出/サポーター制度/事業計画/交差点の標識名称
	第9回	R3.5	サポーター制度/施設貸出/施設評価/連携会議/開館状況/事業実施
	第10回	R3.6	施設貸出/施設評価/環境展/環境フェスタ/環境啓発補助/ひろば事業
第2期	第11回	R3.7	施設貸出/食品ロス削減取組/施設評価アンケート/環境フェスタ/環境展/環境啓発補助/環境の学校/市関連事業
	第12回	R3.9	食品ロス削減取組/コロナワクチン会場使用/環境フェスタ実施/環境の学校・GreenPJ実施/緑のカーテン実施
	第13回	R4.1	R4事業計画/コロナワクチン会場使用/連携会議/環境フェスタ実施/エコ・チャレンジの開催
	第14回	R4.3	R3事業評価/エコ・チャレンジ報告/環境の学校及びGreenPJ報告/環境の学校PRPJ報告/気候市民会議開催
	第15回	R4.5	施設貸出/事業実施等/サポーター登録/R3市政アンケート調査
	第16回	R4.8	事業報告(環境月間、副読本配布、環境フェスタinSUMMER、環境フェスタ他市民等との接点、環境の学校、気候市民会議、五市共同事業)/施設運用(地域防災計画修正/施設予約利用/コロナ影響)/R4後期事業/市関連事業(あったかまつり)
	第17回	R5.2	R5事業計画/五市共同事業報告/気候市民会議報告/WS（冬版）/環境フェスタ/エコ・チャレンジ実施/施設視察
	第18回	R5.3	R5事業計画/環境フェスタ、エコ・チャレンジ報告/副読本改訂/施設視察
	第19回	R5.6	施設予約利用の運用/施設来館及び事業等/事業進捗（環境展、緑のカーテンレポーター募集、WS（夏版））

開館からの振り返り – (4)組織体制 –

令和5年度、令和6年度の環境啓発施設運営会議（主な報告事項等）

令和5年度	第1回 R5.12	委員自己紹介/委員長・副委員長選任/運用方法/施設設置経緯/管理運営方針と運営会議の経緯/環境啓発事業等の概要
	第2回 R6.1	令和6年度事業の考え方/事例紹介『SDGsに貢献できるエコreゾートと“学び”～EE・ESDの実践を通して“学びの質”を考える～』『子どもたちから始まる、つながりと循環の物語』
	第3回 R6.2	令和5年度事業の振り返り/視察報告/事例紹介『事業者等と連携した社会課題解決の取組み 中学生～大学生の参加プログラム考』『社会課題に取り組む市民や団体の事例紹介』
令和6年度	第1回 R6.6	委員自己紹介/運用方法/事業内容
	第2回 R6.7	事例紹介『成蹊学園における環境啓発の取り組みについて』『武蔵野市立小中学校環境教育に関する取組』

○実施状況（意見交換した主テーマ）

- ・施設予約利用のルール・手引き
- ・環境啓発事業補助金の制度
- ・サポーター制度
- ・食品ロス削減取組
- ・コロナワクチン会場使用
- ・事業運営の評価

開館からの振り返り – (4)組織体制 –

③連携会議

◆実施状況

・開館前には館運営に関する意見交換を行い、開館後はネットワーク化していく方向であったが、書面開催が続き、ネットワーク化が遅れていた。令和5年度末に会議形式を休止し、メールでのネットワークとし情報共有の仕組みに移行した。

開催回	時期	テーマ	出席者数
1	7/17	連携会議キックオフ	57名
2	7/31	連携会議を考える	53名
3	9/6	施設名称を考える	41名
4	10/10	社会情勢インプット	32名
5	10/31		45名
6	11/6	プログラムを考える	38名
7	11/20		41名
8	12/11		40名
9	1/15		35名
10	1/30	利用のあり方を考える	41名
11	2/12		36名
12	2/25	評価について考える	24名
-	3/11	開催延期	-
13	6/19-7/3	(書面開催) 連携会議の主な課題	意見数14通
14	8/6-8/20	(書面開催) 情報発信とサポーターについて、利用のルールについて	意見3通
15	2/15-3/1	(書面開催) 施設貸出ルールについてのアンケート	回答数28件
16	3/8-3/22	(書面開催) サポーター制度についてのアンケート	回答数15件
17	5/13-5/18	(書面開催) 貸出ルール、サポーター制度について	意見11通
18	12/21	利用ルール、サポーター制度と運用について	18名
19	6/14	連携会議これまでの振り返り、事業予定、施設利用手続き等の変更、環境フェスタなどのあり方について	9名
20	3/30	エコレポート連携会議の休止と転換について	13名 6名

(5)評価・検証方法 (P.14)

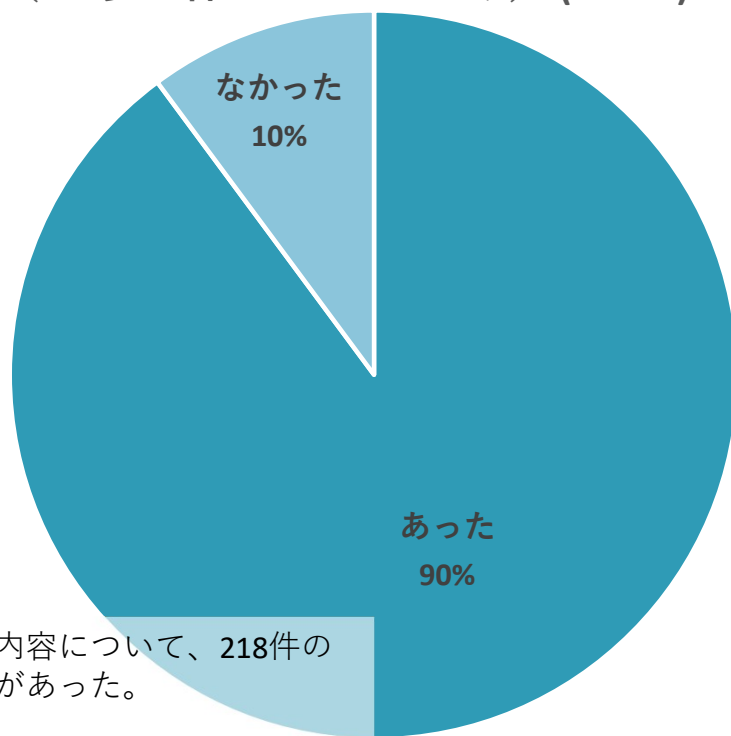
○モニタリング評価

無作為抽出などによる市民アンケート調査や市民団体・施設利用者に対するアンケート調査を行う。アンケート調査の内容は事業・施設への評価や期待すること、対象者の施設との関わり、関わったことによる効果・影響などとする。

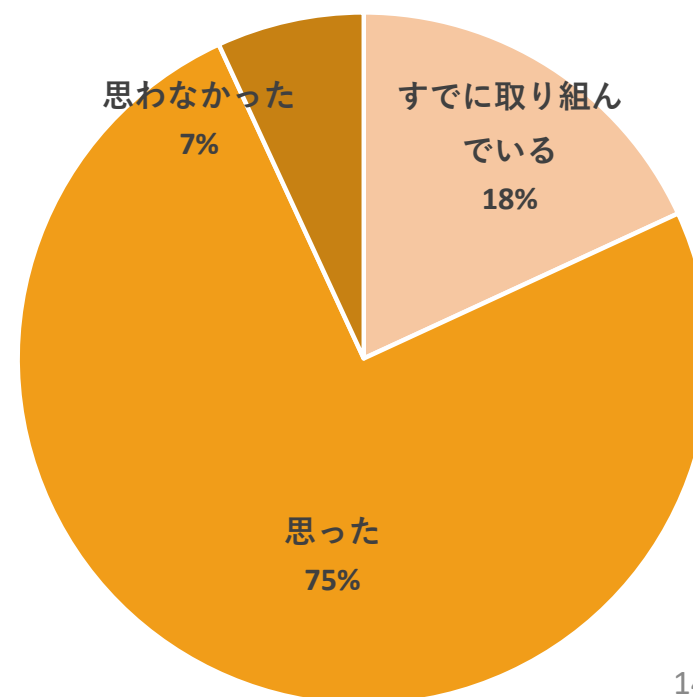
◆実施状況

令和6年度より調査項目を統一し、ワークショップ参加者を対象にWEB形式でアンケートを実施している。

環境についての、
気づきや学びはありましたか？
(WS参加者アンケートより) (n=286)



環境について、何か取り組んでみたいと思いましたか？
(WS参加者アンケートより) (n=276)



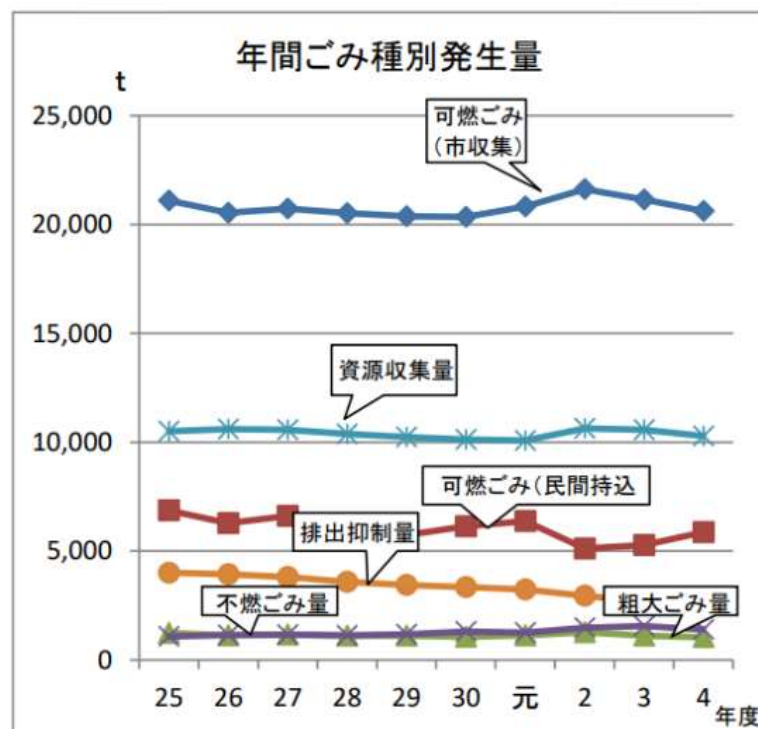
開館からの振り返り – (5)評価・検証方法 –

○ソーシャルインパクト評価

本施設の啓発活動によるごみの量や温室効果ガスの排出量、エネルギー使用量、上下水使用料などの増減状況や、太陽光パネル、燃料電池、雨水浸透施設の設置数などの把握をするほか、環境問題に関心のある人の増加状況をアンケート調査により把握し、効果を測定する。

◆実施状況

- ・ソーシャルインパクト評価については、ごみの量や上下水使用量など、推移を把握できるが、啓発活動による効果を確認することが困難な項目、温室効果ガスの排出量など毎年の変化を把握すること自体が困難な項目がある。
- ・事業ごとに効果測定の方法を検討し取り組んでいくことが考えられる。例えば、むさしのエコポイント事業では、申請件数から環境配慮行動の件数を把握することができる。
- ・市民意識調査等に「環境啓発」の項目を設け調査を実施している。



「令和6年版 事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理」より

流域下水道の流入水量

年度	流入水量 (m^3)
元(31)	23,833,355
2	24,067,035
3	23,533,190
4	23,222,845
5	22,898,938

「令和5年度 事務報告書」より

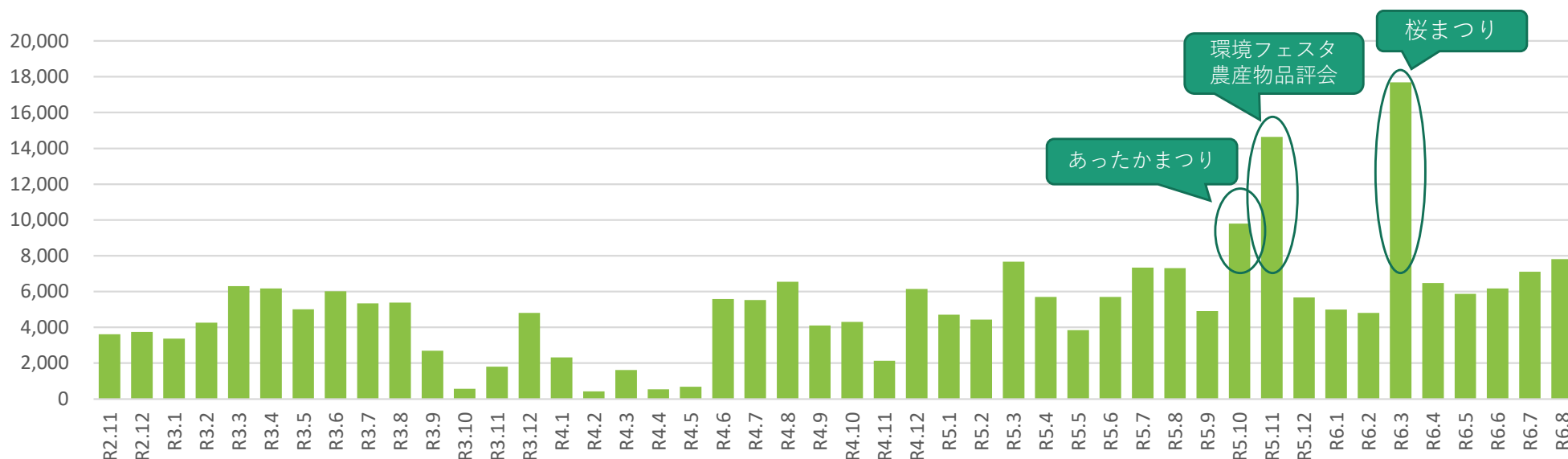
開館からの振り返り – (5)評価・検証方法 –

○施設利用者数

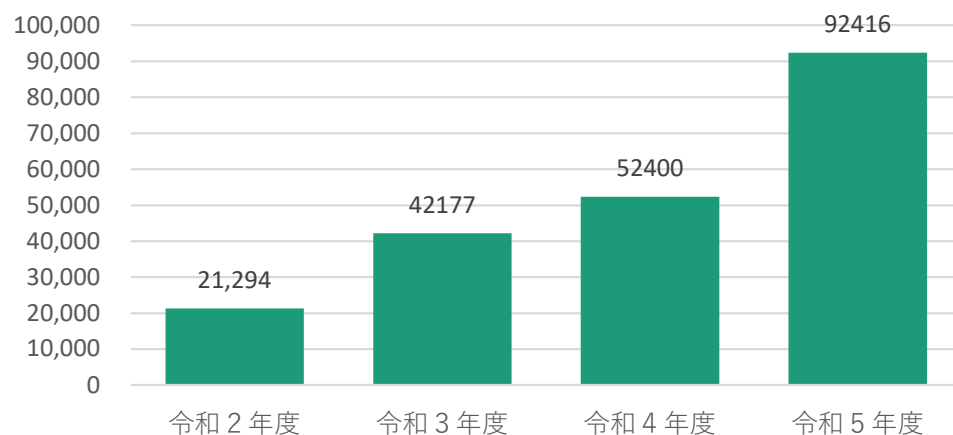
施設への来館数だけでなく、出張型の取り組みの参加者数を含めた指標とする。

◆実施状況

来館者数

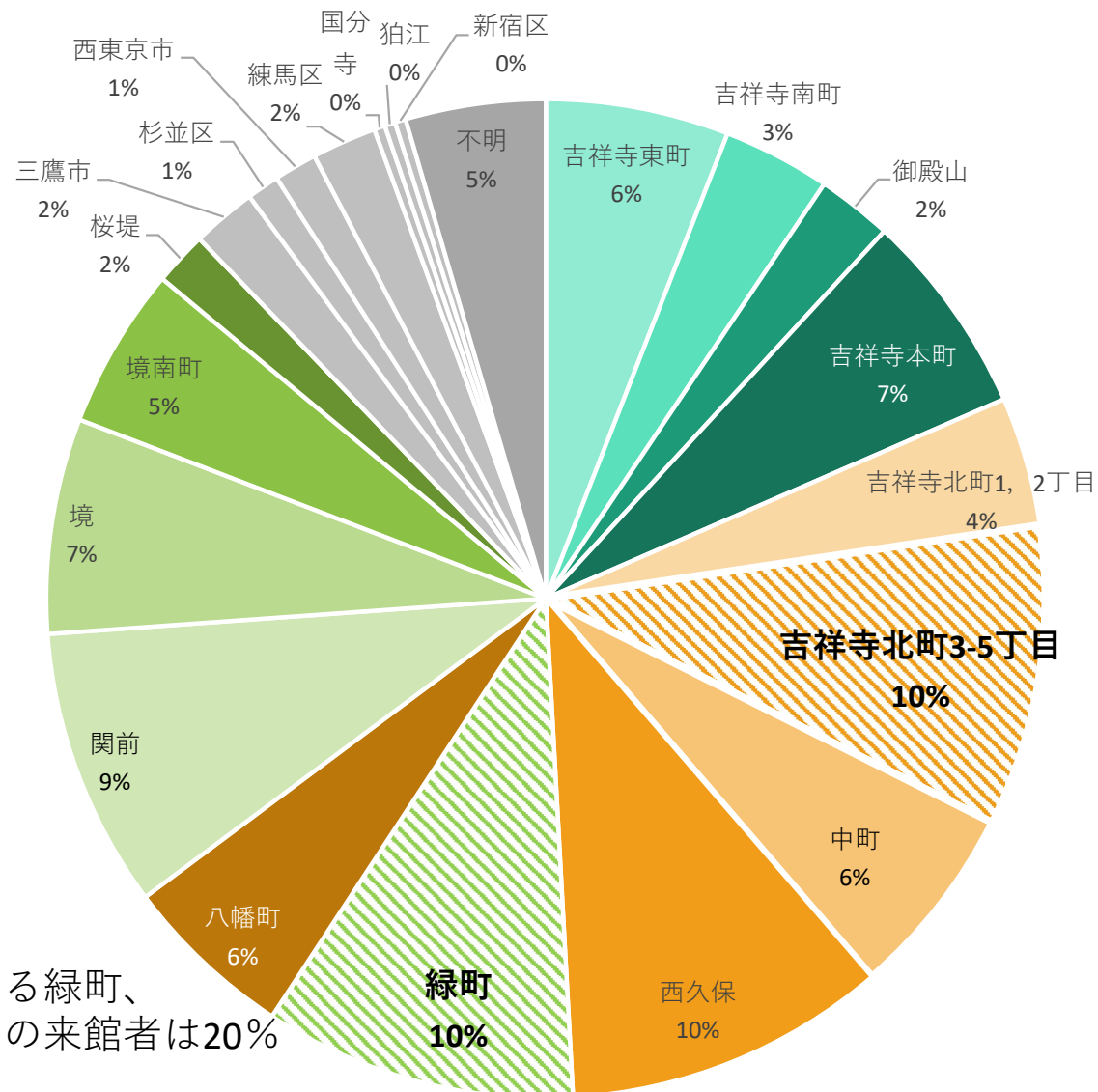


総来館者数(年度ごと)



- ・ 増加傾向。
- ・ 春休み、夏休み期間は特に多い。
- ・ 令和5年10月にあったかまつり、11月に環境フェスタ、農産物品評会、令和6年3月にエコ・チャレンジ、桜まつり

来館者の割合（ws参加者アンケートより） n=287



- クリーンセンター建替えに主に関わる緑町、吉祥寺北町3～5丁目（斜線部分）の来館者は20%
- 中央地域からの来館者は、46%
- 吉祥寺地域から18%、武蔵境地域から23%、市外から13%程度

開館からの振り返り – (5)評価・検証方法 –

地域別の来館比率（WS参加者アンケートより）

■:人口比率より少ない

■:人口比率の半分未満

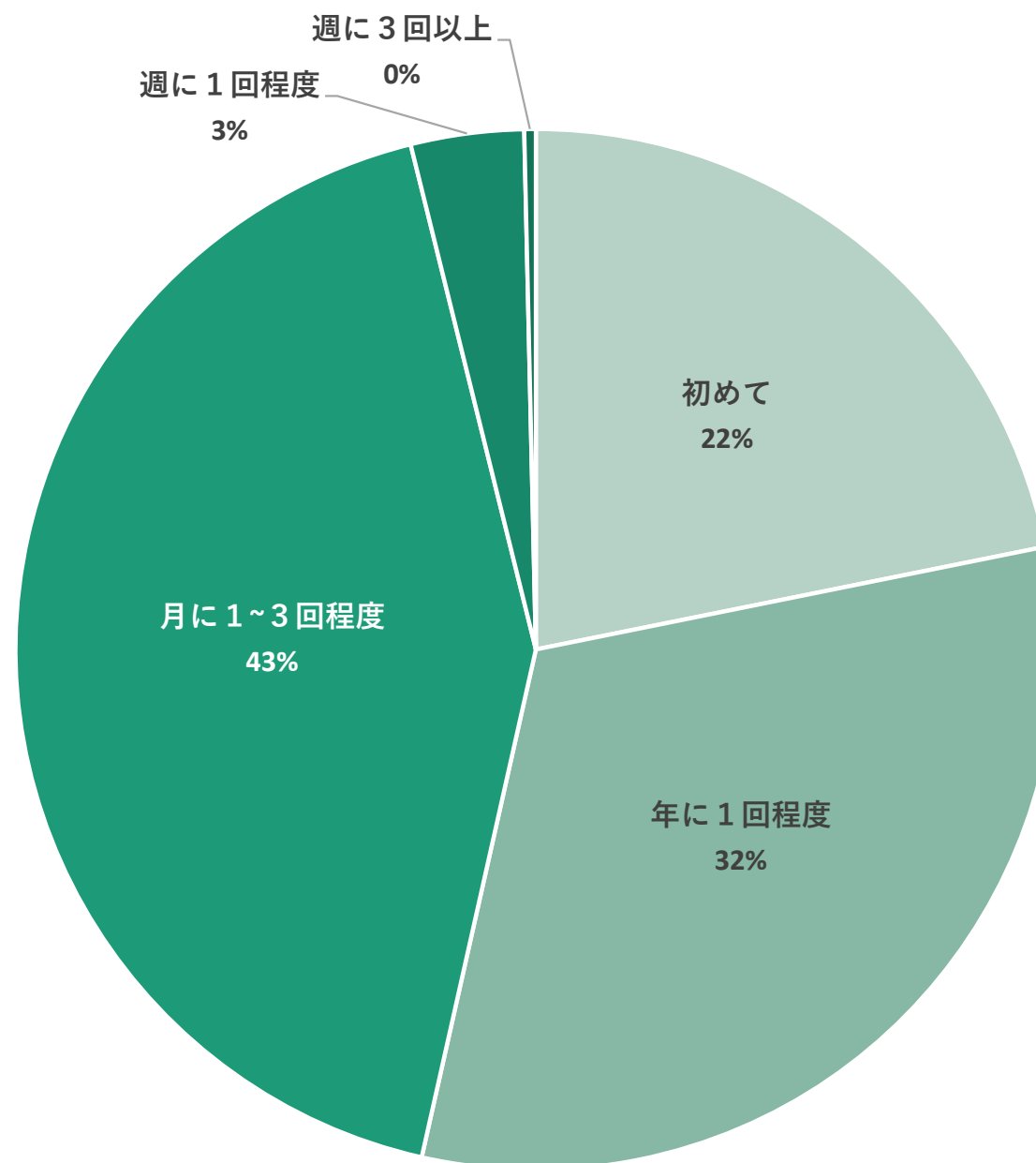
(参考)

地域		市内100%換算の 地域別来館比率	
吉祥寺	吉祥寺東町	7%	<u>21%</u>
	吉祥寺南町	4%	
	御殿山	3%	
	吉祥寺本町	8%	
中央	吉祥寺北町1-2丁目	5%	<u>53%</u>
	吉祥寺北町3-5丁目	11%	
	中町	7%	
	西久保	12%	
	緑町	12%	
	八幡町	6%	
武蔵境	関前	10%	<u>26%</u>
	境	8%	
	境南町	6%	
	桜堤	2%	

人口(人)	人口比率	地域別 人口比率
12,906	9%	28%
13,163	9%	
4,346	3%	
11,831	8%	
6,422	4%	38%
9,620	6%	
14,903	10%	
12,303	8%	
8,295	6%	
4,370	3%	
9,536	6%	34%
16,181	11%	
15,391	10%	
9,099	6%	

148,366

来館頻度（ws参加者アンケートより）（N=284）



開館からの振り返り –（参考）令和2年度–

イベント名	実施日、参加者等
むさしの 環境フェスタ	オンラインイベント 10月15日～令和3年3月31日 配信イベント 11月8日
環境の学校	令和2年10月から令和3年2月まで5回 連続オンライン講座+成果発表会 参加者17名
環境の学校 PRプロジェクト	オンライン開催 webページ、フリーペーパー、SNS 投稿、エコreゾートの紹介動画を作成。参加者14名
緑のカーテン	中止
環境展	中止
緑の市民講座	2月24日、3月26日実施
講演会	中止
市民向けワーク ショップ	中止
SDGs体験ゲーム	中止
来館者向け情報発信	開館日より開始
エコマルシェ	中止

開館からの振り返り －（参考）令和３年度－

イベント名	期間	参加人数	備考
環境の学校	9月19日から3月6日 計7回講座開催	25名	
環境の学校 Greenプロジェクト	9月26日から3月6日	16名	【成果物】 コミュニティガーデン
環境の学校 PRプロジェクト	4月8日から3月6日	1期 27 名 2期 16 名	【成果物】 SNS 投稿 エコ refile フリーペーパー等
環境展	6月5日から30日	224 人 (アンケート回収)	
緑のカーテン	6月5日から9月30日	152世帯	レポート提出 96 件
武蔵野トレジャー ハンティング	11月21日から1月10日		市内謎解き 観光機構と協働
環境フェスタ	11月6日から3月31日	7組18名	ポップアップ 3 か所 出張ものづくり工房 2 か所 むさしのエコ・チャレンジ
ハロウィンフェス タツアー	12月10日	2組6名	吉祥寺ハロウィンフェスタ 実行委員会
むさしのエコ・ チャレンジ	3月5日・6日	来館者939名	

開館からの振り返り – (参考) 令和4年度 –

イベント名	期間	参加人数	備考
環境の学校	7月16日から令和5年3月5日までに計6回 + エコチャレンジ	22人	
環境の学校 Greenプロジェクト	5月28日から令和5年3月5日まで計4回+ エコチャレンジ	20人	
環境の学校 PRプロジェクト	8月27日から令和5年3月5日まで計6回+ エコチャレンジ	14人	
環境展	6月1日から30日	総来館者数 5,589人	
緑のカーテン	6月1日から9月30日	270世帯	レポート数27件
ワークショップ	9回		コロナ対応のため 縮小
環境フェスタ	7月23日から8月21日@エコreゾート 12月1日から12月25日@エコreゾート 令和5年1月22日@京王キラリナ吉祥寺 令和5年2月12日@エコreゾート 令和5年3月4日～5日@エコreゾート		オンラインでは令和 5年1月1日から3月30 日 総閲覧数 3,133件
むさしのエコ・ チャレンジ	令和5年3月5日		

開館からの振り返り – (参考) 令和5年度 –

事業名		期日	内容	令和5年度
イベント	むさしの環境フェスタ	11/19	市民啓発とともに、市民団体等の活動発表や交流を図る。	5,753人
	エコ・チャレンジ(講演会含む)	3/9	エコreゾート事業等の参加者が、一堂に会し情報交換、交流する。	—
連続講座	環境の学校	10～2月 全8回	環境全般や市内の環境問題を学ぶ連続講座。サポーター参加につなげていく。	86人
	Youthプロジェクト	10～3月 全8回	高校生・大学生が環境問題、社会課題の解決に取り組む連続講座	39人
ワークショップ	夏、冬、春のワークショップ	7/22～ 8/20	年3回、1か月程度の期間を設定し、20件程度のワークショップ・講座を実施。市民団体の活動の場 (参加者数は、来館者数を集計)	7,897人
		11/20～ 12/24		6,853人
		3/16～ 3/31		—
自由来館対応 1階運営	ものづくり工房	通年	常設のワークスペース。廃材利用し自由に工作できる。	100～250 人/日程度
	フリースペース展示	通年	イベント等で作成したパネル等の常設展示	—
その他	環境展	6/1～ 6/30	6月の環境月間に合わせて、環境に関する施策についてパネル等を展示	5,701人
	緑のカーテン	6～9月	はゴーヤ苗を配布し、生育記録等のレポートを提出してもらう。	180世帯配布 レポート57件

○SDGsへの貢献度

SDGsのどの項目に該当する取り組みかを事業ごとに事前に示し、モニタリング評価やソーシャルインパクト評価などにより、SDGsへの貢献の可否を判断する。

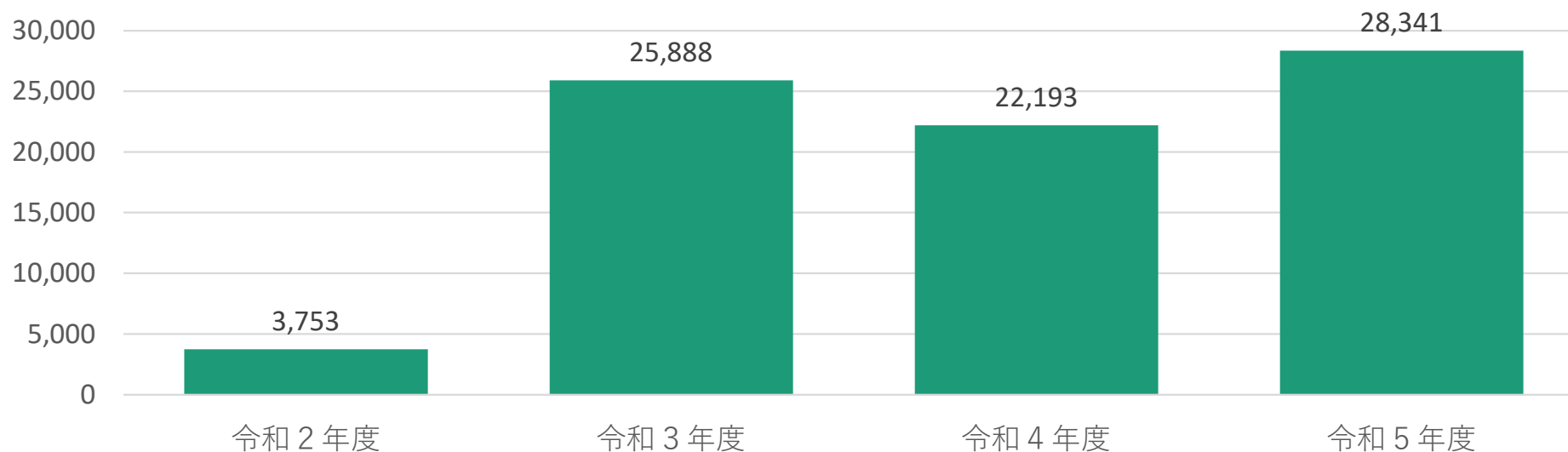
また、様々な事業を行う中で、SDGs17項目のどの項目に該当するかをあらかじめ明示しておくことで、事業参加者にSDGsを意識づけていく。

◆実施状況

現在は、モニタリング評価、ソーシャルインパクト評価について取り組んでいる段階であり、SDGsへの貢献度を評価する段階に至っていない。

開館からの振り返り –（参考）HP・SNSアクセス数–

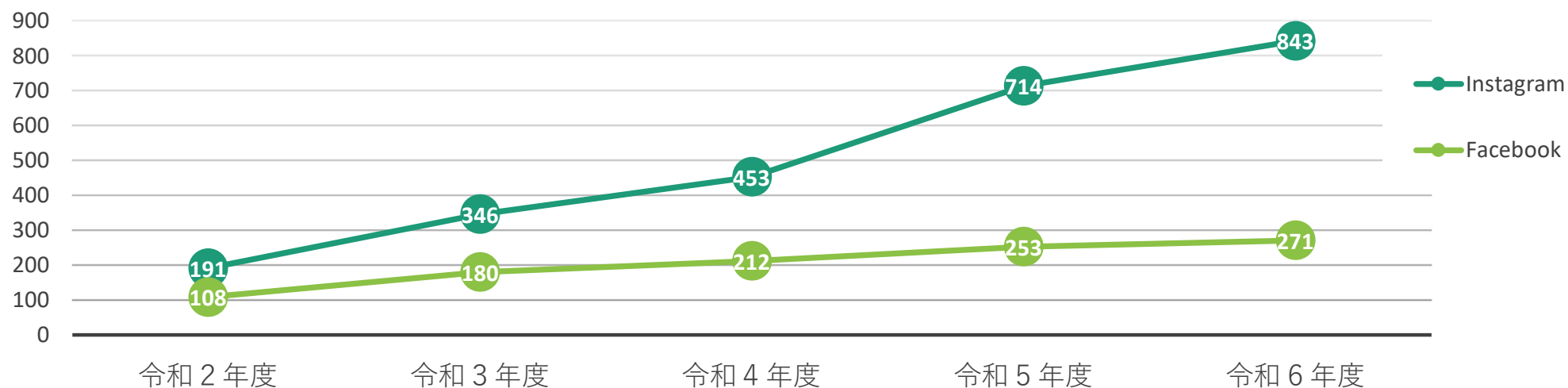
ホームページアクセス数



※セッション数による集計。

※令和 2 年度は令和 3 年 1 月 8 日以降の集計。

SNSフォロワー数



※令和 6 年度は9月5日時点。

開館からの振り返り　－まとめ－

武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針（P.9）「管理運営の基本的な事項」

(1)施設の利用、維持・安全管理

- 施設予約利用など市民利用や市民活動支援の仕組みが整備された。
- 人員不足により、ちょっとした人員配置・シフトに支障をきたしている。

(2)管理運営体制

- 開館からの運営を振り返り、効果的な運営に向け改善する時期を迎えている。
- 施設の仕組みをうまく使っている市民団体や、新たな関係や新規コミュニティなどが生まれている。
- 団体間の情報共有を行っている。エコreゾートを拠点とした市民団体活動を広く広報している。
- 年度当初の事業や事業の継続性などを考慮し、複数年度や包括的な事業委託も検討する必要がある。

(3)所属、業務

- 環境を切り口に、他分野のイベントを支援し、普段環境に関わりの薄い層の来館を得ている。

(4)組織体制

- コーディネート業務の内容や求められる知識・スキルが、当初想定と異なってきている。
- サポーター参加による受付等の運営は難しく、市職員により運営している。
- 運営会議では通年開館できない時期に、市民参加の仕組みを作ることができた。令和5年度以降も事業評価などにより、市民参加型の運営課題について意見交換している。
- 連携会議は、ネットワーク化により情報共有を図っている。

(5)評価・検証方法

- 来館者数の推移、アンケート調査などから市域全域への認知状況や満足度などについて把握し、分析を進めることが考えられる。
- 評価が難しい項目もあり、評価結果の使い方を含め検討する必要がある。

【今後の運営の方向性】

管理運営方針に基づき、開館から概ね5年以降の運営について、市は以下の方向性を踏まえ検討していく。

- 市の基本的な考え方、管理運営の基本的な方針に向けた効果的な運営に漸進していく必要がある。
- 市民や市民団体による環境啓発活動を支援する制度や交流するイベント事業などが整ってきている。引き続き市民参加型施設として、市民や市民団体の環境啓発活動を支援・促進していく。
- 今後も市民意見を聴きながら、さらなる環境啓発プログラムやアウトリーチ事業を展開するため、運営会議や市直営の運営体制を継続しつつ委託事業者などの環境問題や学習、広報、連携等に必要な知見やスキル、民間ノウハウの活用を進める。また、それらが効果的に発揮されるように、事業委託について、複数年にまたがる形や包括的な事業委託などについて検討する。
- 評価・検証については、環境啓発の効果を測定することが難しく、現状でできる調査を分析しながら引き続き検討する必要がある。